報道関係者各位

PRESSRELEASE
2026.11.26
レバウェル株式会社

介護現場の7割超がスポットワークに期待
一方、身体介助等の専門的なケアを任せることには慎重な姿勢

介護現場のスポットワーク活用に関する調査



　レバウェル株式会社が運営する介護職に特化した求人・転職/派遣サービス「レバウェル介護」（ https://job.kiracare.jp/ ）は、介護サービス事業所・施設でシフト管理や採用業務に携わる518名を対象に、介護現場 *1 のスポットワーク活用に関する調査を実施いたしました。

*1：本リリースにおける「介護現場」とは、本調査の回答者がシフト管理や採用業務に携わる介護サービス事業所・施設を指します。

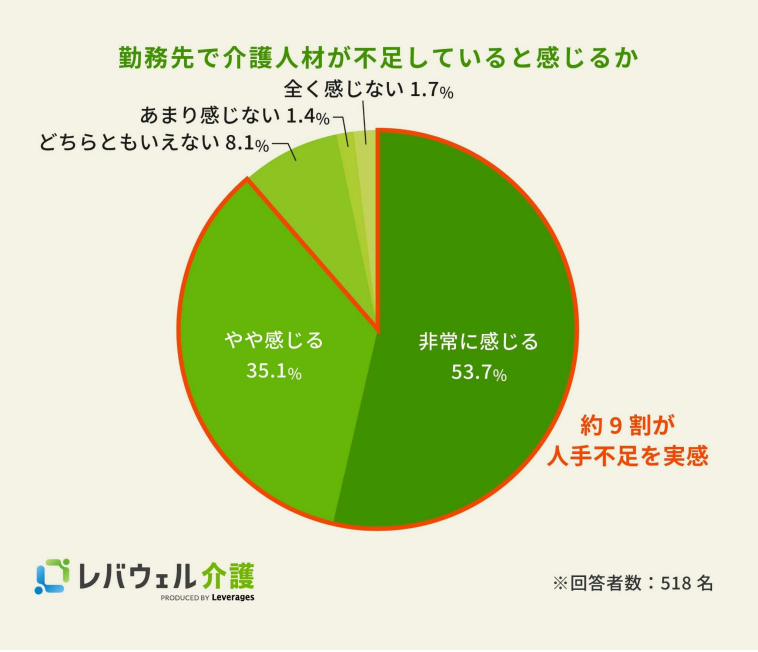
〈調査サマリー〉

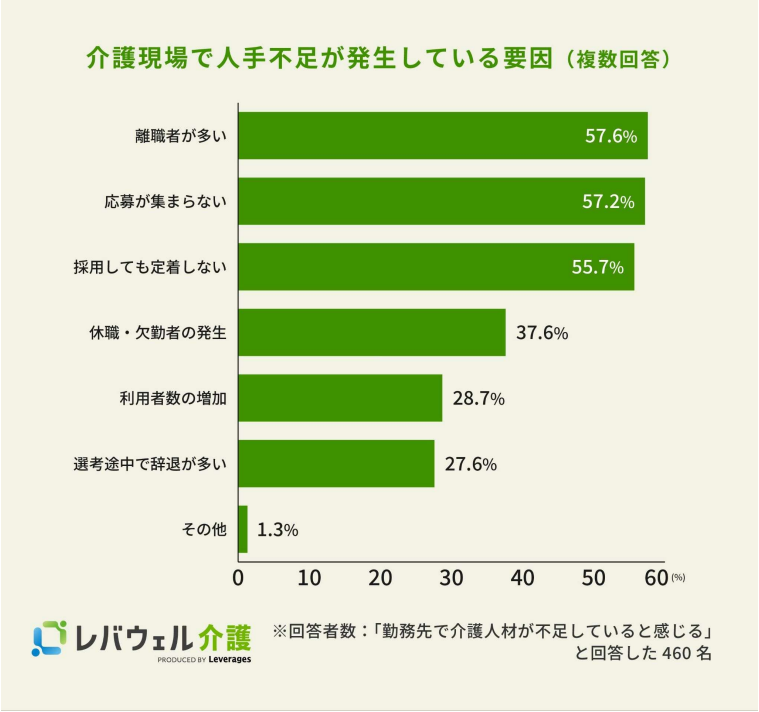
1. 介護現場の約9割が人手不足を実感、約6割が現在の採用策での人材確保に不安と回答

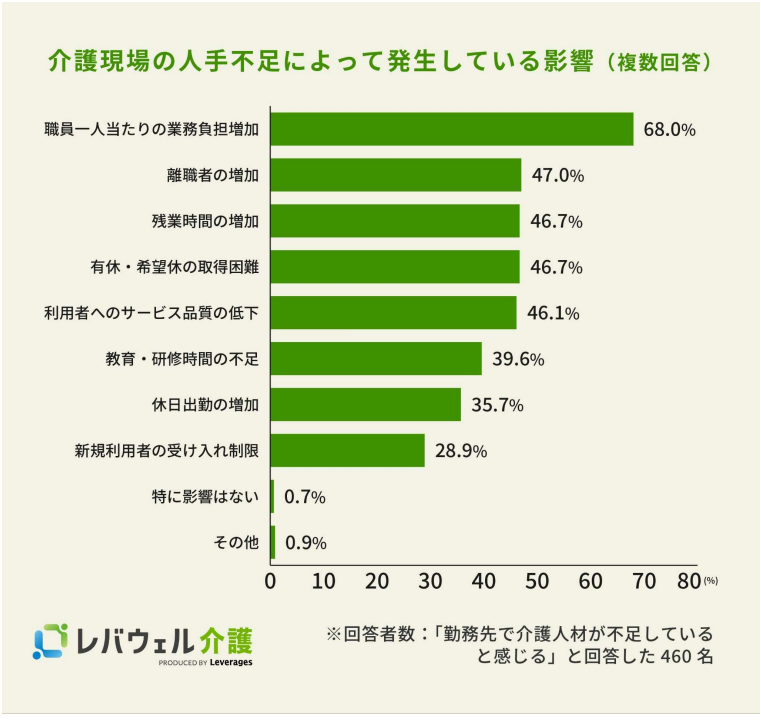
2. 人手不足を感じる時間帯は「早朝・夕食帯」、負担が集中する業務は「入浴介助」が最多
3. 7割超がスポットワークによる現場負担の軽減に期待
4. スポットワーカーに「今すぐ任せられる」業務は身体介助で1割未満、受け入れ体制の整備が鍵

1. 介護現場の約9割が人手不足を実感、約6割が現在の採用策での人材確保に不安と回答

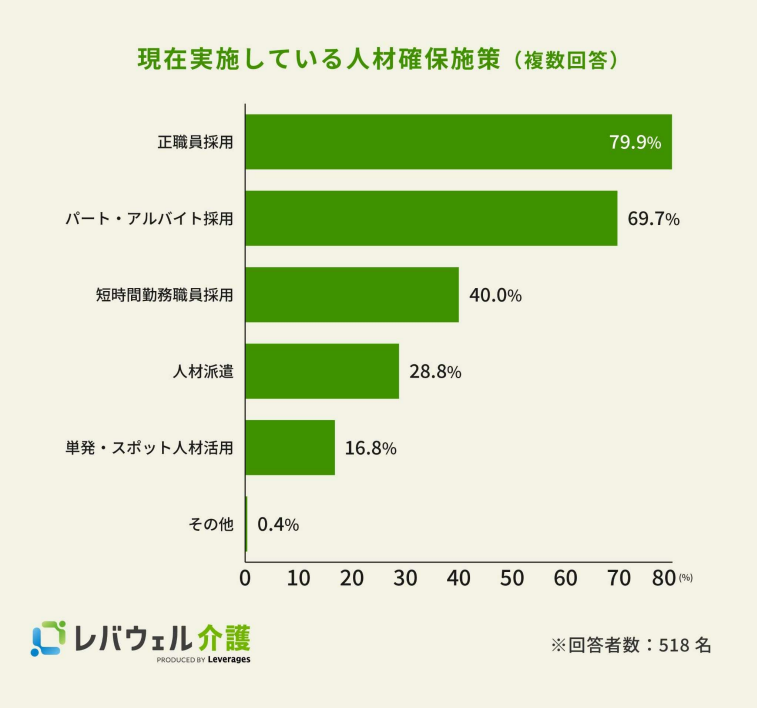
勤務先で介護人材が不足していると感じるか聞いたところ、「非常に感じる（53.7%）」「やや感じる（35.1%）」を合わせて約9割にのぼりました。不足の要因は「離職者が多い（57.6%）」「応募が集まらない（57.2%）」が上位となり、採用・定着の両面に課題を抱えていることが分かります。また、人手不足による影響としては「職員一人当たりの業務負担増加（68.0%）」が最多となりました。

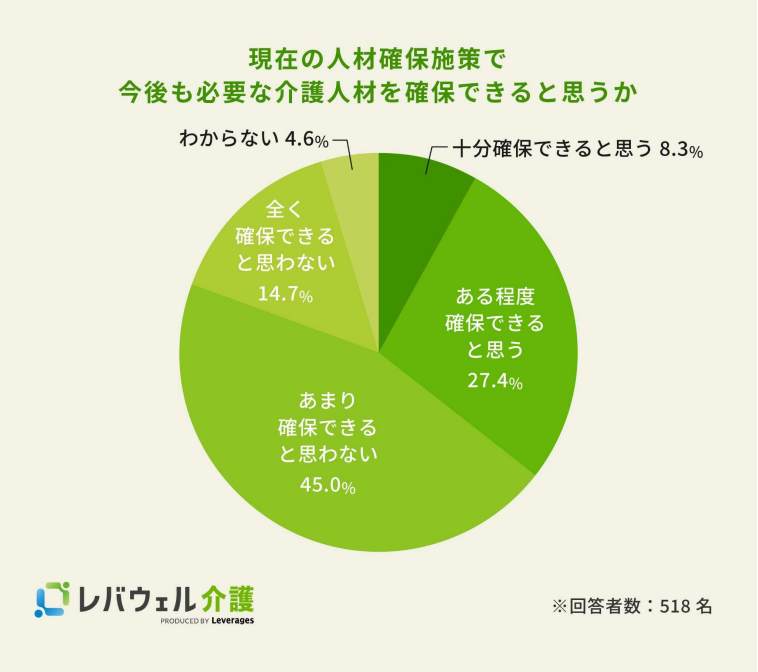






現在実施している人材確保策は、「正職員採用（79.9%）」「パート・アルバイト採用（69.7%）」が上位を占めています。一方で、現在の人材確保策を継続した場合、今後も必要な介護人材を確保できると思うか聞いたところ、「あまり確保できると思わない（45.0%）」「全く確保できると思わない（14.7%）」が合わせて59.7%にのぼりました。これらの結果から、多くの介護現場が人手不足を実感しているだけでなく、従来の採用手法のみを継続することにも不安を抱えている実態が明らかになりました。

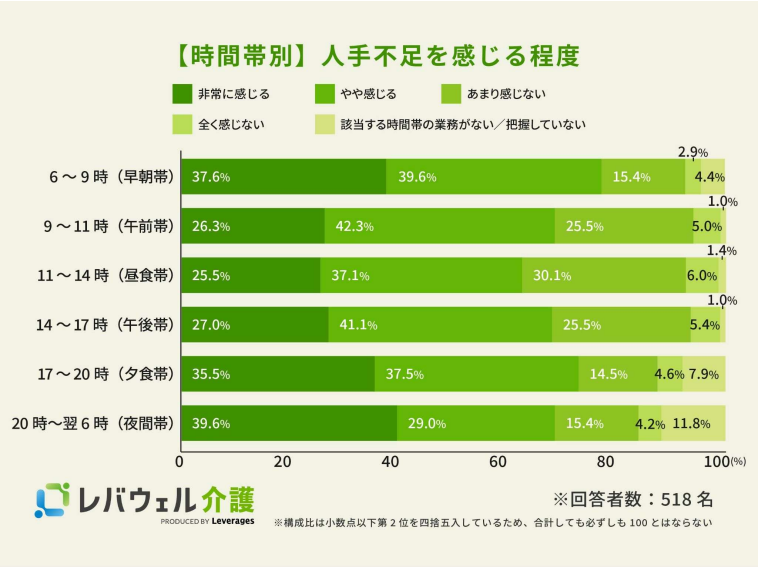




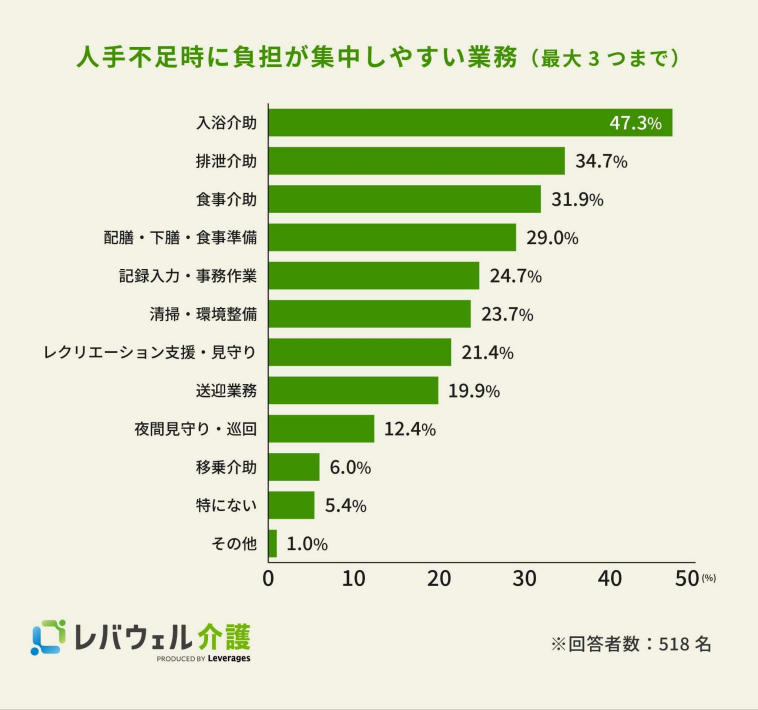
2. 人手不足を感じる時間帯は「早朝・夕食帯」、負担が集中する業務は「入浴介助」が最多

人手不足感を感じる時間帯 *2については「6時～9時（早朝帯）（77.2%）」が最も高く、次いで「17時～20時（夕食帯）（73.0%）」となりました。早朝帯や夕食帯など、特定の時間帯に人手不足を感じている事業所が多いことが分かりました。

*2：人手不足を感じるかに対して、「非常に感じる」「やや感じる」と回答した割合の合計

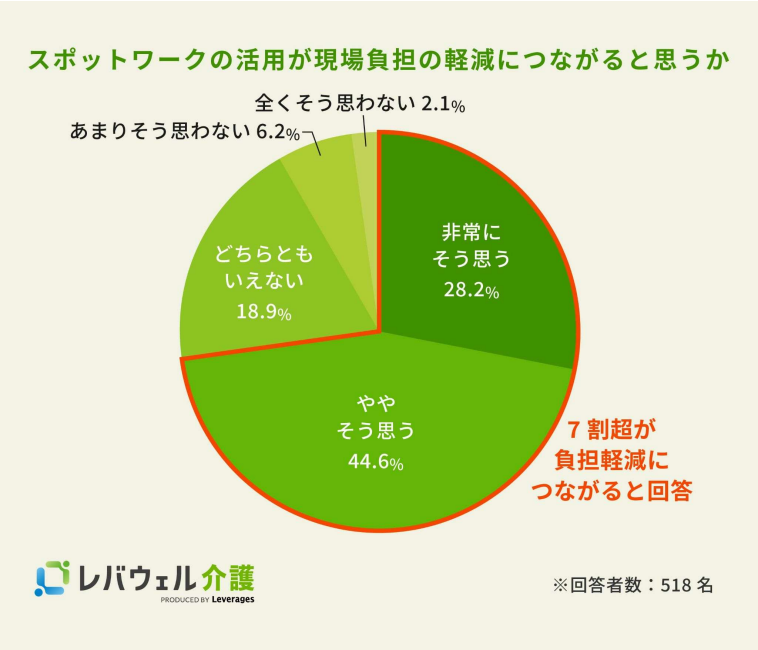


人手不足時に特に負担が集中しやすい業務では、「入浴介助（47.3%）」が最も多く、次いで「排泄介助（34.7%）」「食事介助（31.9%）」となりました。人手不足による負担はすべての時間帯・業務に一様に生じるのではなく、特定の時間帯や介助業務に集中していることがうかがえます。



3. 7割超がスポットワークによる現場負担の軽減に期待

スポットワークを活用することが現場の負担軽減につながると思うか尋ねたところ、「非常にそう思う（28.2%）」「ややそう思う（44.6%）」を合わせて72.8%にのぼりました。人手不足が続く介護現場では、必要な時間帯に人材を確保できるスポットワークが、現場の負担を和らげる選択肢として捉えられていることがうかがえます。

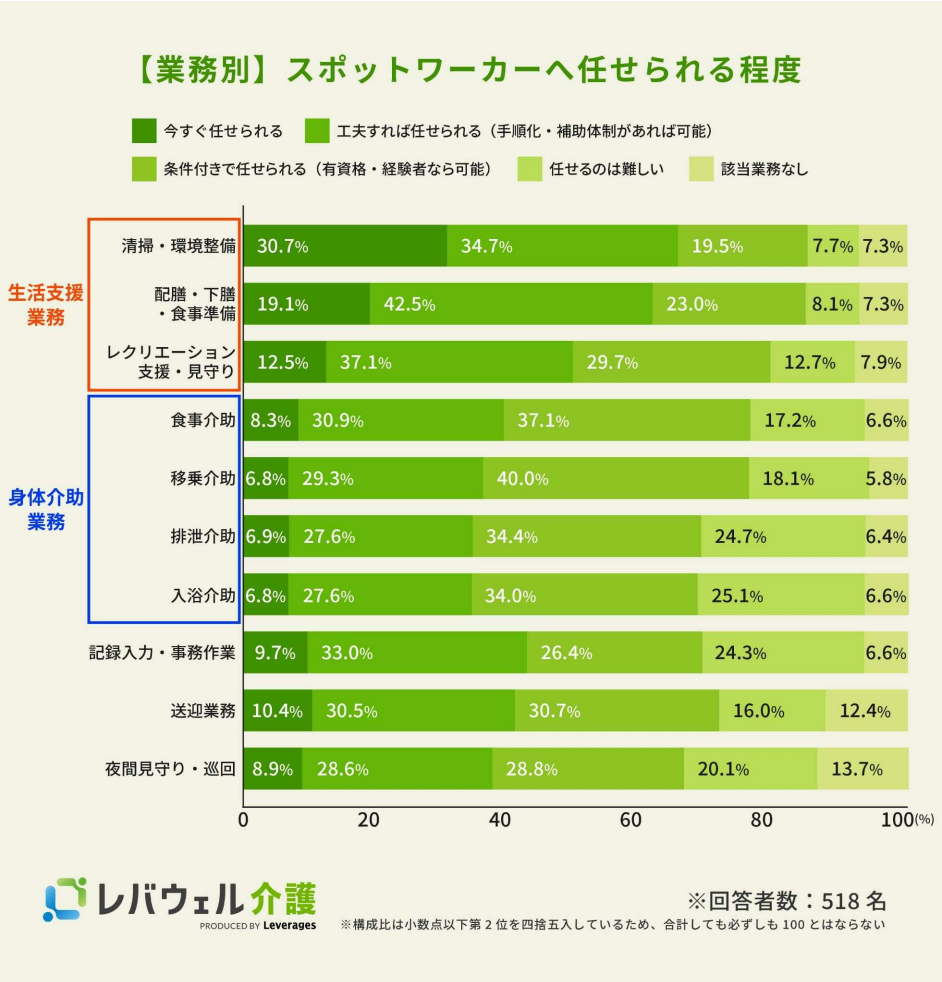


4. スポットワーカーに「今すぐ任せられる」業務は身体介助で1割未満、受け入れ体制の整備が鍵

介護現場で発生する各業務について、スポットワーカーにどの程度任せられるか聞いたところ、清掃・環境整備では30.7%、配膳・下膳・食事準備では19.1%が「今すぐ任せられる」と回答しました。一方、食事介助や入浴介助、排泄介助、移乗介助といった身体介助業務では、いずれも1割未満にとどまり、すぐに任せることは難しいと考える人が多いことが分かりました。

一方で、受け入れ体制や条件次第では活用の余地も見られました。配膳・下膳・食事準備では42.5%が「手順化・補助体制があれば可能」と回答したほか、移乗介助では40.0%が「有資格者・経験者なら可能」と回答しました。このように、生活支援業務では手順化や補助体制、身体介助業務では資格や経験の有無が、業務を任せる際の判断材料の一つになっていると考えられます。

これらの結果から、介護現場でスポットワーカーの活用を広げるには、単に人材を確保するだけでなく、業務ごとに必要な条件を整理し、誰に何を任せるかを明確にすることが重要だと考えられます。



〈レバウェル株式会社 取締役社長 小西東 のコメント〉

近年、少子高齢化の進行に伴い、介護業界では人材不足が深刻化しています。厚生労働省の推計 *3 によると、2040年度には約57万人の介護人材が不足すると見込まれており、人材確保は喫緊の課題です。

今回の調査では、介護現場の約9割が人手不足を実感しており、特に早朝帯や夕食帯、入浴介助など、特定の時間帯や業務に負担が集中していることが分かりました。こうした中、7割超が、必要な時間帯にスポットワークを活用することによる負担軽減に期待を寄せています。一方で、「今すぐ任せられる」かどうかは業務によって異なり、手順化や補助体制の整備、資格・経験に応じた役割分担といった条件が整うことで、任せられる範囲が広がる余地があることも見えてきました。

今後、介護現場で人材を確保していくためには、従来の採用手法に加えて、事業所の人員体制や業務特性に応じて、多様な人材を柔軟に活用していくことが重要だと考えています。そのためには、単に人手を補うだけでなく、どの業務を誰に任せるのかを明確にし、必要なサポート体制を整えるなど、現場の実情に合わせた役割設計が欠かせません。

レバウェル介護は、人材を必要とするタイミングや緊急度、求める資格・経験など、施設ごとに異なる人材課題を踏まえ、多様な人材活用の選択肢を提供することで、介護現場の負担軽減と人材の確保・定着に貢献してまいります。

*3：厚生労働省「第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_41379.html



◆小西 東氏・プロフィール

レバウェル株式会社 取締役社長

看護領域の人材紹介事業に従事し、地方支店の立ち上げをはじめ、採用、組織構築、営業企画などを推進。事業部長として事業運営全般を統括する。
2022年、レバウェル株式会社執行役員に就任し、2025年、取締役に就任。2026年4月1日付で、取締役社長に就任。医療系紹介事業協会代表幹事も務める。

＜調査概要＞
調査年月：2026年7月10日（金）～2026年7月11日（土）
調査方法：インターネット調査
調査主体：レバウェル株式会社
実査委託先：外部調査会社
有効回答数：518名
調査対象：全国の介護サービス事業所・施設 *4 でシフト管理や採用業務に携わる方

*4：本調査における「介護サービス事業所・施設」の有効回答数（518名）の内訳は、特別養護老人ホーム（n=73）、介護老人保健施設（n=83）、有料老人ホーム（n=93）、サービス付き高齢者向け住宅（n=31）、デイサービス（通所介護）（n=103）、グループホーム（n=62）、訪問介護（n=73）です。

レバウェル株式会社（ https://corp.levwell.jp/ ）
レバウェル株式会社は、「この国のウェルネスを支える」をビジョンに掲げ、医療・福祉・ヘルスケア業界に特化した人材関連事業およびSaaS事業を展開しています。日本の超高齢化社会において深刻化する労働力不足に対し「人材供給・最適配置」「新たな働き手の確保」「生産性向上」の観点から課題解決を支援し、誰もが安心して医療・福祉・ヘルスケアサービスを受けられる社会の実現に貢献しています。
レバウェル株式会社は、レバレジーズ株式会社のグループ企業です。

▽『レバウェル』　医療・介護・保育・ヘルスケア業界に特化した求人・転職プラットフォーム
http://levwell.jp
▽『レバウェルスクール介護』　介護資格取得スクール
https://job.kiracare.jp/info/school/
▽『わんコネ』　医療福祉施設向け入退院支援SaaS
https://one-conne.com/

レバレジーズ株式会社（ https://leverages.jp/ ）
本店所在地 ： 東京都渋谷区渋谷二丁目24番12号　渋谷スクランブルスクエア24階 /25階
代表取締役： 岩槻　知秀
資本金　　： 5,000万円
設立　　： 2005年4月

事業内容　：IT、医療・ヘルスケア領域をはじめとした人材事業、SaaS事業、M&Aコンサルティング事業 など

「社会課題の解決」を軸に、IT、医療・ヘルスケア領域をはじめとした人材事業・SaaS事業、M&Aコンサルティング事業など、国や業界をまたいだ様々な領域でサービスを展開。2005年に創業以来、黒字経営を継続し2025年度は年商1700億※を突破しました。業界を絞らないポートフォリオ経営と、各分野のスペシャリストが集うインハウスの組織体制で、時代を代表するグローバル企業を目指します。（※会計基準変更後）

本リリースに関する報道関係のお問い合わせ
レバレジーズ株式会社　広報部
MAIL： pr@leverages.jp